Hokkaido University News

北大時報

令和5年
6

No. 831　June 2023

総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問
「UNIVAS CUP 2022-23」北海道地区総合ランキング1位を獲得
愛媛県×北海道大学が語る地方創生講演会を開催

No.831　令和5年

目　次

6

北海道大学ディスティングイッシュト
プロフェッサー称号授与式を挙行

北海道大学ディスティングイッシュト
リサーチャー称号授与式を挙行

全学ニュース

1　北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行
2　北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行
3　令和5年度新渡戸カレッジ入校式を開催
4　「UNIVAS CUP 2022-23」北海道地区総合ランキング1位を獲得
5　インターンシップで始める就活準備ガイダンスを開催～令和5年度キャリアセンター就職ガイダンスがスタート～
6　東京大学・九州大学・北海道大学の3大学の学生合同グループワーク講座を開催
7　全学インターンシップ履修説明会を開催～学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定～
8　札幌キャンパスで第20回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
9　愛媛県×北海道大学が語る地方創生講演会を開催
10　令和5年度第2回定例記者会見を開催
11　北大フロンティア基金
14　産学・地域共同推進機構が「北大×サントリー　最高の買い物体験について考えようプロジェクト」を開催
15　産学・地域共同推進機構が「つなぐ横丁 本気のお店屋さんごっこ」にて子供向け社会起業家育成クイズラリーを実施
16　総長一行が米国カリフォルニア大学デービス校を訪問
17　総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問
18　米国マサチューセッツ大学アマースト校から図書館長ら3名が来訪
19　大学院留学生向け日本就職に関する情報提供セミナーEssential knowledge and tips for your job hunting in Japanを英語で開催
20　「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 2022年度は22名の教員が11校に向けて講義を実施

部局ニュース

21　文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
22　函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
22　水産科学研究院「水産科学未来人材育成館新営その他工事の安全祈願祭」を挙行
23　メディア・コミュニケーション研究院が中国人民大学と初の学術交流
24　環境健康科学研究教育センターが調査参加者の高校生に向けて見学会を実施
25　桂田静枝・芳枝姉妹の旧蔵資料を大学文書館で受贈

表敬訪問　26

人事　27

27　新任教授紹介

訃報

28　名誉教授　新妻　篤　氏

資料

29　在籍学生数（令和5年5月1日現在）
31　令和5年度外国人留学生数（令和5年5月1日現在）
32　令和5年度国別外国人留学生数（令和5年5月1日現在）

「UNIVAS CUP 2022-23」
北海道地区総合ランキング1位を獲得

札幌キャンパスで第20回
「キャンパス・クリーン・デー」を実施

「つなぐ横丁 本気のお店屋さんごっこ」にて
子供向け社会起業家育成クイズラリーを実施

総長一行が米国カリフォルニア大学
デービス校を訪問

表　紙：総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問（関連記事17頁に記載）
裏表紙：キャンパス風景㊴　大野池（北12条西8丁目）

全学ニュース

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

5月11日（木）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、今年4月に新たに称号を付与された者3名（豊嶋崇徳教授、近藤　亨教授、澤　洋文教授）に対し、寳金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成26年度に創設したものです。人格が高潔で、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが期待できる本学の教員等へ称号を付与します。

なお、今年度に称号が付与された者（更新となった者を含む）は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所　　属	職名	氏　　名	称号付与期間
医学研究院	教授	豊嶋　崇徳	令和5年4月1日～令和8年3月31日
遺伝子病制御研究所	教授	近藤　　亨	令和5年4月1日～令和8年3月31日
創成研究機構ワクチン研究開発拠点	教授	澤　　洋文	令和5年4月1日～令和8年3月31日
理学研究院	教授	圦本　尚義	令和5年4月1日～令和8年3月31日
薬学研究院	教授	原島　秀吉	令和5年4月1日～令和7年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	教授	鈴木　定彦	令和5年4月1日～令和7年3月31日
環境健康科学研究教育センター	招へい教員	岸　　玲子	令和5年4月1日～令和6年3月31日
先端生命科学研究院	招へい教員	コスタンティノ　クレトン	令和5年4月1日～令和6年3月31日
先端生命科学研究院	招へい教員	マイケル　ルビンスタイン	令和5年4月1日～令和6年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ロレーナ　エリザベス　ブラウン	令和5年4月1日～令和6年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ウィリアム　ウォームスリー　ホール	令和5年4月1日～令和6年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	エリザベス　ルイーズ　ハートランド	令和5年4月1日～令和6年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	デイビット　チャールズ　ジャクソン	令和5年4月1日～令和6年3月31日
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	アーナブ　ペイン	令和5年4月1日～令和6年3月31日

授与式の様子

左から寳金総長、澤教授、近藤教授、豊嶋教授、山口淳二理事・副学長

北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行

5月15日（月）、北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、新たに称号を付与された者5名（石垣侑祐准教授、鎌田俊一准教授、佐藤博隆准教授、高橋裕介准教授、乗本裕明准教授）に対し、寳金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー制度は、本学の教育研究の一層の推進及び優秀な若手教員の確保に資することを目的として、令和4年1月に創設したものです。専門分野において高い研究業績を有する本学の若手教員等に対し、称号を付与します。

なお、今年度に称号を付与された者は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所　　属	職名	氏　　名	称号付与期間
理学研究院	准教授	石　垣　侑　祐	令和5年4月1日～令和8年3月31日
理学研究院	准教授	鎌　田　俊　一	令和5年4月1日～令和8年3月31日
工学研究院	准教授	佐　藤　博　隆	令和5年4月1日～令和8年3月31日
工学研究院	准教授	高　橋　裕　介	令和5年4月1日～令和8年3月31日
医学研究院	准教授	乗　本　裕　明	令和5年4月1日～令和8年3月15日

授与式の様子

写真手前：左から寳金総長、鎌田准教授、石垣准教授、山口淳二理事・副学長、写真奥：左から乗本准教授、高橋准教授、佐藤准教授

令和5年度新渡戸カレッジ入校式を開催

5月13日（土）、新渡戸カレッジ入校式を高等教育推進機構にて執り行いました。

大講堂において学部教育コース入校式が行われ、寳金清博校長（北海道大学総長）及び杉江和男校友会エルム会長（新渡戸カレッジ副校長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役職員、学部長、フェロー紹介が行われ、フェローを代表して上田英樹さんによる挨拶がありました。

学生からは、修了生代表の木立真凜さん及び在校生代表の松原康稀さんからの祝辞が披露された後、入校生を代表して白水千尋さんが挨拶を行いました。その後、昨年度に優れた活動を行った学生6名に対し、新渡戸カレッジ奨励賞授与の表彰式が行われ、最後に令和4年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞ゼミ（萩野ゼミ）の成果発表が行われ、式は無事に終了しました。

引き続き、N1講義室において大学院教育コース入校式が行われ、寳金校長による挨拶の後、新渡戸カレッジ役職員、学院長、メンター紹介が行われ、メンターを代表して萩野　泉さんの挨拶がありました。続いて、基礎プログラム入校生代表の丹由美子さんの挨拶が行われ、その後、オナーズプログラム入校生代表のスウ・シウンさんが挨拶しました。また、同日に入校時オリエンテーション及び授業も行われました。

（学務部教育推進課）

令和5年度新渡戸カレッジ入校者一覧

プログラム	コース	入校生数
基礎プログラム	学部教育コース	371
	大学院教育コース	39
オナーズプログラム	学部教育コース	145
	大学院教育コース	15

寳金校長の挨拶

入校生代表　白水さんの挨拶

基礎プログラム代表　丹さんの挨拶

オナーズプログラム代表　スウさんの挨拶

「UNIVAS CUP 2022-23」北海道地区総合ランキング1位を獲得

令和5年5月16日（火）、北海道大学が「UNIVAS CUP 2022-23」で北海道地区総合ランキング1位を獲得したことを記念し、一般社団法人大学スポーツ協会（以下、「UNIVAS」）の池田敦司専務理事から、寳金清博総長に賞状とトロフィーが手渡されました。

UNIVASは平成31年に創設され、以後、大学スポーツの振興と参画人口拡大に向けて活動しており、運動部学生のデュアルキャリア形成支援事業をはじめ、大学スポーツの安全安心な環境確立事業、ブランド価値向上及びDX推進等、数多くの事業を展開しています。

また、令和3年から、寳金総長はUNIVASの理事にも名を連ねています。

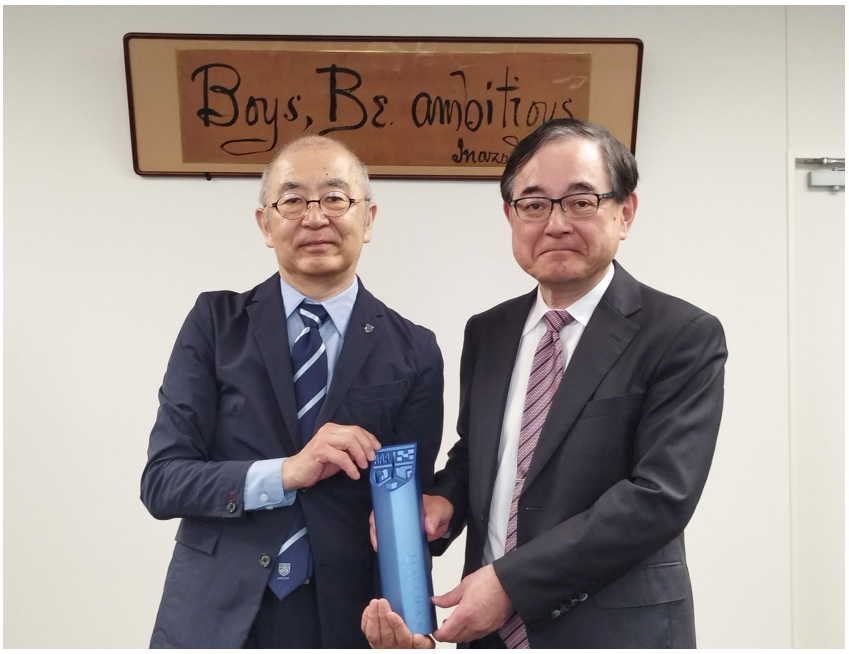
UNIVASでは大学スポーツの振興を目的として、平成31年から競技横断型大学対抗戦「UNIVAS CUP」を開催し、加盟217大学で総合ランキングを競っています。

北海道地区からも多くの大学が加盟する中、北海道大学は平成31年のUNIVAS CUP開催以降、4年連続で北海道地区総合ランキング1位を獲得しています。

池田専務理事からの総合ランキング1位獲得に関する説明を受け、寳金総長から、新型コロナウイルス感染症の影響により課外活動団体の部員数は減少したが、コロナ禍も終焉を迎え、課外活動が再興することを期待している旨のお話しがありました。

「UNIVAS CUP 2022-23」の賞状とトロフィーは体育館エントランスに飾られていますので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

（学務部学生支援課）



池田専務理事から寳金総長が トロフィーを受け取る様子

インターンシップで始める就活準備ガイダンスを開催
～令和5年度キャリアセンター就職ガイダンスがスタート～

4月21日（金）、キャリアセンターが主催する「インターンシップで始める就活準備ガイダンス」を開催しました。

キャリアセンターでは、年間を通じて就職活動やインターンシップに参加する学生へのガイダンスや講座、セミナーを開催しており、年間で延べ約10,000名以上の学生が参加しています。本ガイダンスは、令和5年度開催の初回で、現在の就職活動やインターンシップの状況を伝えるスタートアップのガイダンスとして開催し、オンラインで約350名の参加がありました。

ガイダンスでは、まず亀野　淳キャリアセンター長が挨拶し、続けてキャリアセンターの太田順也インターンシップマネージャーから、現在の本学の就職状況や本学キャリアセンターの支援内容等について説明を行いました。

続いて、4名の就職情報会社の方にご登壇いただき、コロナ禍を経た現在の就職活動や企業側の採用活動について、講演を行いました。講演はキャリアセンターの太田インターンシップマネージャーの進行のもと、パネルディスカッション方式で実施しました。実際の就職活動の現場で様々な企業・団体の採用にかかわる採用コンサルタント4名の登壇者から、数字やデータを用いながら全国と北海道の学生の状況などを比較した分析や、様々な業界の採用活動の実情や裏側についても解説されました。

事前に学生から質問を募集したほか、当日は30分以上にわたって質疑応答を行い、学生の不安や疑問を解消する場となりました。当日参加した学生からは、「ネットや一般のサイトでは聞けない情報が手に入って良かった」「理系、文系、大学院生の就活の共通点や動き方の違いが分かり、自分の計画が立てやすくなった」などの意見があり、勉強や研究と両立しながらの活動や不安を解消するアドバイスなど、本学の事情に沿った内容に満足の声がありました。

キャリアセンターでは、インターンシップの支援、学部1年生から活用できるキャリアガイダンスや就職活動に関するガイダンスなど、年間を通じて様々なセミナーを行っています。夜間のオンライン開催などで多くの学生が参加しやすい場を設けるほか、対面での交流機会イベントも増やしていく予定です。また、就職活動について、学生への個別キャリア相談も実施しています。

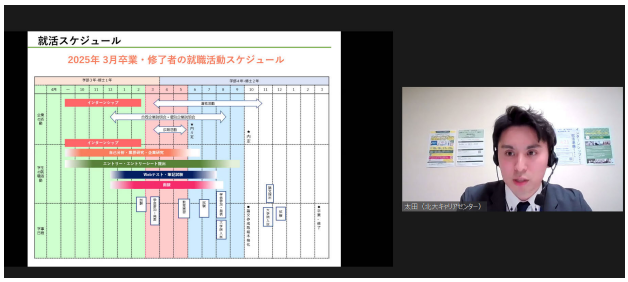
詳細はキャリアセンターのホームページで随時公開していますので、ぜひ学生の方へご案内ください。

https://cc.academic.hokudai.ac.jp/

（キャリアセンター）

日　　時：2023年4月21日（金）18：30～20：30
会　　場：オンライン配信及びオンデマンド配信　※オンデマンド配信について学生はELMSで視聴可能
パネリスト：株式会社ジェイ・ブロード　北海道支社長　菅野万里子　氏
株式会社ディスコ　北海道支社長　松岡孝史　氏
株式会社マイナビ　大学支援推進統括部統括部長　久保潤一郎　氏
株式会社リクルート　新卒Division大学支援推進部　就職ジャーナル編集長　中田充則　氏
主催・企画・当日進行：キャリアセンター

当日のパネルディスカッション講演の様子



就職活動スケジュールを解説する太田インターンシップマネージャー

東京大学・九州大学・北海道大学の3大学の学生合同グループワーク講座を開催

5月11日（木）、東京大学、九州大学と本学合同で、インターンシップに向けたグループワーク講座をオンラインで開催しました。

昨年から新しく開催した合同講座で、2年目となる今年は本学の予約枠は満席となり、当日は3大学から計約60名の学生が参加しました。学生は10グループに分かれて共通のテーマでグループワークを行い、最後には全体に向けてグループでプレゼンテーションを行いました。ほとんどの本学参加学生にとって、他大学の学生とのグループワークやグループディスカッションを行うのは初めて、とのことでしたが、初対面のメンバーと短い時間でそれぞれの価値観を示しつつ、結論に向かってディスカッションを行い、全グループが時間内にしっかりとまとめあげていました。

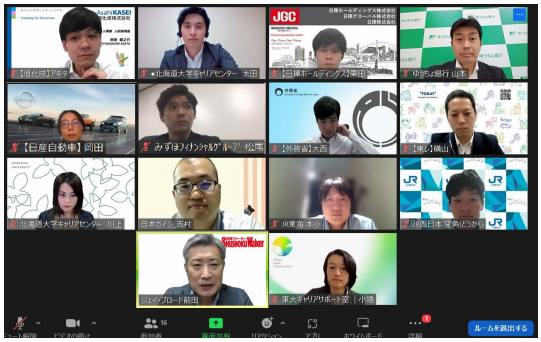
当日は10社の企業・団体にご協力をいただき、学生のディスカッションを企業目線でサポートいただきました。全グループのプレゼンテーション後には、ディスカッションのプロセスや内容などについて、グループ及び個々人へ丁寧なフィードバックがありました。就職活動を意識して参加した学生が多くいる中、ビジネス目線での議論の広げ方やキャリアパスについてなど、広い視野での多くのアドバイスがあり、さらに講座終了後も個別に学生からの質疑応答に対応いただきました。

参加した学生からは「周りの学生のレベルを体感したり企業から直接フィードバックをもらえたりと非常に充実していた」「レベルの高いメンバーに囲まれた状態でのグループワーク練習ができて、勉強になる点が多く大変参考になった」「実際に働いている方の意見や、具体的で非常にためになる詳細なフィードバックをいただけて課題が明確になり、モチベーションが上がった」などのコメントがあるなど、他大学の学生や企業の方の考えにふれることができる貴重な場となりました。

全国の企業、遠方の大学と繋がることができるオンライン開催ならではの場として、今後も時期や内容を変更して実施していく予定です。

（キャリアセンター）

日　　時：2023年5月11日（木）17：00～19：00
会　　場：オンライン
主催及び協力：株式会社ジェイ・ブロード、北海道大学キャリアセンター、東京大学キャリアサポート室、
　　九州大学学務部奨学支援課
協力企業：旭化成株式会社、外務省、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）、
　　東レ株式会社、日揮ホールディングス、日産自動車株式会社、日本ガイシ株式会社、
　　株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社ゆうちょ銀行
グループワークテーマ：多様な人材が活躍できる企業の条件とは



ガイダンス当日の協力企業・団体と各大学キャリアセンター

全学インターンシップ履修説明会を開催
～学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定～

5月16日（火）、高等教育推進機構高等教育研究部とキャリアセンターの主催で、「全学インターンシップ履修説明会」をオンラインで開催しました。

全学インターンシップは、インターンシップ先の企業・団体等の開拓や調整、学生の選考、インターンシップ参加前や参加後の学生への研修に大学が関与する、正課の教育科目としてのインターンシップ制度です。夏季休業中に原則5日間程度以上のインターンシップを推進しており、就業体験における教育効果を高めています。全学教育科目として単位認定していますが、今年度からは大学院生についても大学院共通科目として単位認定が可能となり、全ての大学院に通う正規学生が対象となりました。

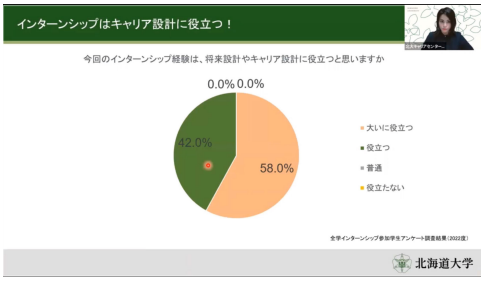
履修説明会では、インターンシップ担当教員の高等教育推進機構の亀野淳教授が挨拶を行い、川上あき特任講師が、全学インターンシップ制度における手続きや支援の内容、過去の参加学生のアンケート結果などを説明しました。また、経済同友会と連携し、充実した内容の就業体験が人気となっている学部1・2年生専用の特別プログラムについても説明を行い、1年生、2年生から多くの質問が寄せられました。

今後、6月から派遣先企業とのマッチングを開始し、教員による選考や7月の事前研修、学生との個人面談を得て、夏季休業期間中の8月～9月にインターンシップが実施される予定です。本学においても総務企画部人事課が窓口となり、本学学生のインターンシップ受入れを予定しています。

インターンシップ参加前後の教育効果を高める各種研修も随時実施していきますので、詳細はキャリアセンターウェブサイトでご確認ください。

（キャリアセンター）

日　　時：2023年5月16日（火）18：15～19：30
会　　場：オンライン配信及びオンデマンド配信
　　※オンデマンド配信について、学生はELMSで視聴可能
主　　催：高等教育推進機構高等教育研究部/キャリアセンター
当日進行：キャリアセンター　インターンシップマネージャー　太田順也
担当教員：高等教育推進機構　亀野　淳教授、川上あき特任講師
詳　　細：キャリアセンターウェブサイト　https://cc.academic.hokudai.ac.jp/



全学インターンシップの制度やスケジュール、効果について説明

札幌キャンパスで第20回「キャンパス・クリーン・デー」を実施

全学一斉の構内清掃作業として、札幌キャンパスでは5月17日（水）に第20回「キャンパス・クリーン・デー」を実施しました。キャンパス・クリーン・デーは、春の恒例行事として位置づけられており、今回で20回目を迎えることができました。令和2年～令和4年の3年間は新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止の観点から中止となりましたが、今年度に入って本学の行動指針レベルが引き下げられたことにより実施することができました。

当日、事務局参加者は百年記念会館前に集合し菅原修考理事からの挨拶の後、清掃作業を開始しました。学生・教職員等、約4,200名が参加し、それぞれ持ち場で清掃作業を実施しました。

今後も快適で安全なキャンパス環境を維持するうえで、一人でも多くの方にキャンパス美化活動にご参加いただくとともに普段から一人一人が本学の構成員として、美景の継続について協力いただきますようお願いします。

（施設部環境配慮促進課）

挨拶をする菅原理事（百年記念会館）

挨拶をする幅崎浩樹研究院長（工学研究院・工学院・工学部）

実施状況（図書館）

実施状況（北キャンパス）

愛媛県×北海道大学が語る地方創生講演会を開催

5月25日（木）にフロンティア応用科学研究棟にて、愛媛県との共催により「愛媛県×北海道大学が語る地方創生講演会」を開催しました。

この講演会は、愛媛県が設置する営業本部による北海道での営業活動の中で生まれた両者の繋がりをきっかけとして、双方が取り組む「地方創生」をテーマに互いのトップが直接学生に対して語るイベントとして企画・開催したものです。

当日は、中村時広愛媛県知事による講演、中村知事と寶金清博総長による対談、本学の学生10名と愛媛県で地方創生に係る活動を行う企業人・移住者等のファシリテーター4名によるパネルディスカッションの3部構成で行われ、会場には定員満席となる約240名の方に来場いただきました。

中村知事による講演では、公務員の人事評価改革や自治体で初めて営業本部を設置した話のほか、しまなみ海道に自転車通行を導入した際の国との折衝エピソードなど、知事自身のご経験に基づく様々な話題について熱く語っていただきました。

中村知事と寶金総長の対談では、地球温暖化に関連した柑橘栽培、みかん鯛の養殖、フィールド研究についての話題や、地方創生における大学と自治体の連携や野球に関する話題など、予定時間を超えて多岐に亘るお話が交わされました。

最後のパネルディスカッションでは、ファシリテーターの個性的な地方創生の取り組みに対して、参加学生から積極的な質問がありました。学生が取り組む起業活動に関連した話題も出るなど白熱した議論が行われ、盛況のうちに終了となりました。

（社会共創部社会連携課）

会場の様子

身振り手振りを交えながら熱く語られる中村知事

左から、ファシリテーター役の門出健次総長補佐、
中村知事、寶金総長

パネルディスカッションの様子

令和5年度第2回定例記者会見を開催

5月25日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けて分かりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。行松泰弘理事の進行のもと、医学研究院の平野　聡教授、北海道大学病院の海老原裕磨特任教授が発表しました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から6名の参加がありました。発表内容は以下のとおりです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

・日本製手術支援ロボットhinotori™を用いた遠隔手術の実証研究
「世界初の遠距離ロボット胃切除術のカダバースタディー」
（医学研究院　教授　平野　聡、北海道大学病院　特任教授　海老原裕磨）
※発表資料掲載URL
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R5.htm

記者会見の様子

記者からの質問に答える平野教授

発表を行う海老原特任教授

当日の発表者と司会と務めた行松理事
（左から海老原特任教授、平野教授、行松理事）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報 **基金累計額**（4月30日現在）	38,049件　6,356,432,850円

4月のご寄附状況

法人等24社、個人261名の方々から28,012,769円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

HRMホールディングス株式会社、アサヒビール株式会社、アジア航測株式会社、医療法人社団薫風会青空たけうち内科クリニック、一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会、横綜興業株式会社、株式会社Buzzreach、株式会社LIFRELL、株式会社ジェネスティコンサルティング、株式会社フェザーホーム、株式会社プラスワン、株式会社橋本川島コーポレーション、株式会社大林組、株式会社東伸、共和コンクリート工業株式会社、住友化学株式会社、日本ケミコン株式会社、北見赤十字病院、北大土木32会、北辰土建株式会社

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青井　良平	青木　俊介	青木　良仁	赤平　幸郎	東　亮太	阿部　公一	阿部　慎司
阿部　雅史	荒井　克俊	荒　千砂	在田　一則	有村　博紀	安藤　伸	石井　哲夫	石橋　健一
石村孝太郎	泉山　浩郎	井出　肇	伊藤　大貴	伊藤　肇	伊藤　雄三	井野　智	猪股　路子
井原　博	今井　仙造	今村　健登	入江せつ子	入澤　秀次	岩崎　哲也	上田　峻弘	上野　貴希
鵜飼　重治	鵜飼　隆好	内田　和臣	梅本　由佳	エラクネスヨガラジャ	縁記　和也	遠藤　公憲	大家　邦久
大岡　智学	大竹　晋	太田　聡	大畑　陽子	大原　正範	小笠原一誠	岡田　惠	岡部　知行
岡　睦夫	岡村　圭祐	小川　英之	沖崎　遼	小田原一史	小原　敬士	角　政廣	笠松　純
加藤　伸康	加藤　紘之	金井　幸司	金川　眞行	金澤　寧	金田　聡門	金田　亮平	兼近　健
川野辺　創	河本　充司	菊地　浩吉	菊地由生子	菊地　要子	来生　聡	北井　秀典	衣川　暢子
木村　祐介	久保　吉史	熊谷　和哉	熊谷　雪子	栗原　誠治	黒岩　勲	上月　浩	後藤　七郎
小林　賢人	小林　広武	小林茉里子	小宮　幸久	齋藤　久	坂倉　雅夫	坂本　大介	崎元　大志
櫻田　英治	佐々木賢治	佐々木晴美	佐々木　眞	三升畑元基	塩野真由美	志済　聡子	柴田　耕一
渋江　隆雄	渋川　穣	清水　太	蛇川　忠暉	新宮　康栄	菅原　修孝	杉江　和男	杉本　聡
鈴木　貴之	鈴木　範一	数土　勉	須野賢一郎	須原　大輔	瀬名波栄潤	高井　保秀	高瀬登志彦
高橋　正人	髙柳　枝直	高柳　涼	武内　惇	舘谷　清	田中　稲藏	田中　定信	谷口　浩治
田原　米起	田村　淳二	土家　琢磨	筒井　弘	出村　誠	寺澤　睦	寺田　健二	寺田　利昭
寺山　朗	豊田　威信	永岡　栄	中川　敦夫	長瀬　博	中野　篤	中山　宏二	成田　郁子
成田　正邦	西田　実弘	新田　佳祐	根本　叔治	根元　良弘	野澤　俊也	野田　宏子	橋本　博行
長谷川　淳	畠山　俊一	服部　高重	花田　秀一	濱井　九五	原田　耕	東山　寛	平瀬　律哉
吹野　信	福井　克郎	福士　幸治	福永　悟郎	藤井　靖久	藤澤　聖克	藤谷　大樹	渕上　玲子

古田　修平	前川　雅人	眞下　六郎	町村　　均	松井　耕二	松井　光夫	松井　良太	松岡　　敬
松田　愛子	松永　明宏	松原　謙一	松宮　重房	丸山　孝士	三浦　　正	宮川　忠芳	宮澤　達也
宮田　和男	宮田　信幸	村上　公彦	村瀬　亮太	村田　武志	八重樫幸一	矢嶋　　剛	山内　一泰
山内　貴敏	山内　泰次	山田　澤明	行松　泰弘	弛　　和順	横山　　考	吉木　　敬	吉田　岩雄
吉田　　均	吉田　広志	LI　FENG	脇坂　明美	渡邊　基史	渡部　克将	和田　宜之	

銘板の掲示　20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

（個　人）

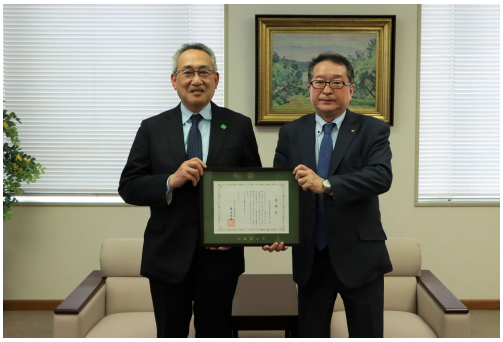
青木　良仁、鵜飼　隆好、大竹　　晋、岡村　圭祐、小川　英之、川野辺　創、蛇川　忠暉、出村　　誠、山田　澤明

（法　人）

株式会社橋本川島コーポレーション、HRMホールディングス株式会社、横綜興業株式会社、
医療法人社団薫風会青空たけうち内科クリニック、北辰土建株式会社

〈感謝状の贈呈〉

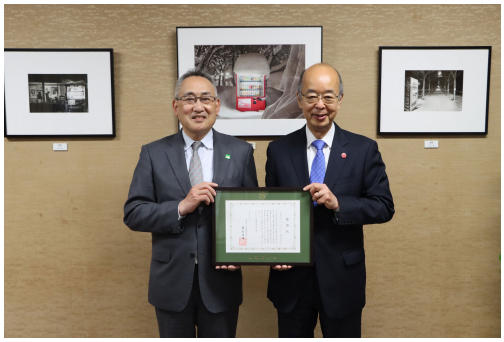
生活協同組合コープさっぽろ様（令和5年4月13日）



北海道酒類販売株式会社様（令和5年4月14日）

日糧製パン株式会社様（令和5年4月14日）

特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所様
（令和5年4月17日）



北海道コカ・コーラボトリング株式会社様
（令和5年4月28日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

（社会共創部広報課）

産学・地域共同推進機構が「北大×サントリー 最高の買い物体験について考えようプロジェクト」を開催

3月30日（木）、産学・地域共同推進機構はサントリー株式会社と「北大×サントリー　最高の買い物体験について考えようプロジェクト」を開催しました。イベントには11名の学生が参加し、貴重な意見交換が行われました。

ワークショップは、サントリーホールディングス株式会社、生活協同組合コープさっぽろのご協力のもと開催しました。生活協同組合コープさっぽろの宅配サービス「トドック」についてご説明をいただき、WEBサイトやアプリの体験を通じて最高の買い物体験を提供するためのアイデアを考えました。学生たちは「トドック」で体験したオンラインでの買い物について、使用感や自分たちが普段から買い物する際に感じる不満・課題を共有し、それに対する解決策を考えました。

その中で特に注目のアイデアは、宅配サービス「トドック」のUI・UX改善、オンライン買い物体験におけるデータの利活用でした。デジタルネイティブの学生はオンラインサイトの使い方を理解するのがとても早く、検索方法、画面のデザインなど鋭い意見が出ました。データの利活用についてはパーソナライズ、他のサービスへの応用など様々なアイデアが出ました。

このワークショップは、実際に企業で提供されているサービスに対して学生たちが課題を特定し、それを解決するためのアイデア創出、新しいサービスの考案方法について学ぶ貴重な機会となりました。また、企業との協働によるビジネスのあり方を学ぶことができ、学生の今後の活動に大いに役立つものとなりました。

このワークショップを通じて、顧客ニーズに合わせた最高の買い物体験を提供することの重要性や可能性を再認識しました。今後も企業と学生たちが協力して、新しいアイデアが生み出される機会を提供していきます。

産学・地域協働推進機構では、研究と教育を社会に還元するための活動を行っております。今回はサントリーホールディングス株式会社、生活協同組合コープさっぽろのご協力で、学生がビジネスについて考えるワークショップを実施しました。今後も様々な企業と連携し、イベントを企画することで社会に貢献していきます。

詳細に関しましては、産学・地域協働推進機構（k-iwaki@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

（産学・地域協働推進機構）

オンラインでの買い物体験

チームでアイデアを共有する様子

アイデア発表

終了後の全体写真

産学・地域共同推進機構が「つなぐ横丁 本気のお店屋さんごっこ」にて子供向け社会起業家育成クイズラリーを実施

4月22日（土）、札幌駅近くにある「つなぐ横丁」にて、株式会社MamaLady主催の子供向けイベント「本気のお店屋さんごっこ2023」が開催されました。

産学・地域協働推進機構は、イベントでフードロスをテーマにしたソーシャルアントレプレナー育成に向けたクイズラリーを実施しました。フードロスの意味や現状を知るための問題から、実際の企業の事例などを通じて自分にできるアイデアを考える設問まで、子供たちは直面する社会課題に対して悩みながらも一生懸命考えて取り組みました。

イベントには300組を超える応募があり、未就学児から小学生まで幅広い子供たちが参加しました。飲食店のブースでは、参加した子供たちがお店屋さんの店員となり、調理、盛り付けや配膳を行うことで、イベント内で使える通貨を獲得でき、お仕事の仕組みを実感できるなど、楽しさと学びが一体となった体験が提供されました。

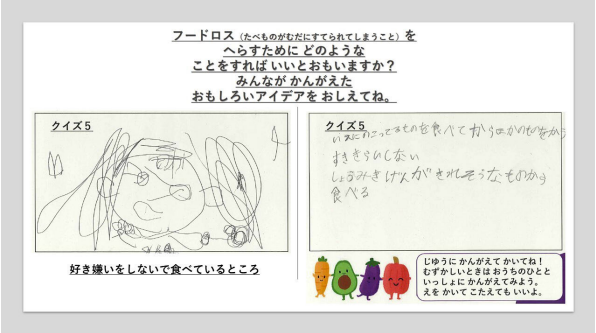
今回のクイズラリーに参加してくださった子供たちや保護者の方から、「また参加したい」「ぜひ、今後も案内してほしい」「北大にいきたい！」など多くのご意見をいただきました。今後も、地域に学びと体験の場を提供していきます。

（産学・地域協働推進機構）

クイズラリーに挑戦する様子1

クイズラリーに挑戦する様子2

フードロスについて説明を行う様子



子供たちのクイズ回答

総長一行が米国カリフォルニア大学デービス校を訪問

4月16日（日）～18日（火）、国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーション及び国際食資源学院、農学研究院で連携のある、米国カリフォルニア大学デービス校（UC Davis）を総長一行が訪問しました。札幌市に拠点を構える機能性食品開発企業の株式会社アミノアップが、本学との共通研究連携先であるUC Davisを、同社出資の年次栄養学講義「Kosuna Distinguished Lecture in Nutrition」のため訪問した際に同行したものです。株式会社アミノアップの小砂憲一会長、北舘健太郎代表取締役社長、関野　琴営業部課長、同社の連携先である株式会社トレードピア及びニューヨークに拠点を置くMaypro Industriesの代表の方々に、本学から寳金清博総長、髙橋　彩理事・副学長、滝口満喜獣医学研究院長、高須賀太一農学研究院准教授、佐藤哲也国際企画課長、植村妙菜国際連携機構URAの6名が同行しました。

ゲイリー・メイ学長との会談では、農学・ヘルスケア分野で地域コミュニティ連携を生み出すべく建設中のアギー・スクエア事業（Aggieは農学生を意味する）、大学コミュニティへの学長メッセージの発信、今後の農学連携について話が弾みました。一行は、本学とのクロスアポイントメントにある同学化学科の渥美正太教授、栄養学科のロバート・ハックマン研究教授との再会を楽しみ、ロバート・モンダヴィ・ワイン＆食品科学研究所のデイヴィット・ブロック教授によるワイン研究教育施設案内を受け、小型動物からウマ等の大型動物を取り扱う動物病院を見学しました。また、同学の強みである獣医及び農学の連携可能性を探るため、マーク・ステッター獣医学部長、ウォートリーナ・スミス副学部長（国際担当）、ボアズ・アルジー教授、エルミアス・ケブリーブ農学・環境科学副学部長（国際担当）、ジョアンナ・レギュルスカ国際担当副学長との打ち合わせを行いました。同学のサステナビリティ運動の長を務めるカミル・カーク氏、担当部署となっている国際部署ジョリン・シューメイカー氏、トム・ローゼン＝モリーナ氏との会談では、学内のサステナビリティ運動への意識醸成や地域コミュニティ関与、学生の自発的活動の奨励について意見交換がなされました。

（国際連携機構）

寳金総長とメイ学長

獣医学部執行部と一行

（株）アミノアップの小砂会長と一行

総長一行が米国マサチューセッツ大学アマースト校を訪問

4月19日（水）～21日（金）、米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）を総長一行が訪問しました。同学は、札幌農学校初代教頭のウィリアム・スミス・クラーク博士が学長を務めたマサチューセッツ農科大学をルーツとし、互いに最も古くから大学間で交流しています。今回は寳金清博総長、髙橋　彩理事・副学長、既存研究連携のある情報科学研究院／化学反応創成研究拠点（ICReDD）の吉岡真治教授、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎教授、農学研究院の愛甲哲也准教授、国際企画課の佐藤哲也課長、国際連携機構の植村妙菜URAの7名が訪問し、先方執行部と既存連携を鑑み更なる全学的な連携拡大について同学執行部と意識を共有したほか、アマースト郊外共同墓地にあるクラーク博士の墓前に供花し、19世紀当時に遙々北海道まで渡った苦難と、今日の両大学の連携に至る博士の功績に想いを馳せました。

札幌農学校に縁のある品々を保管する図書館だけではなく、クラーク博士以降札幌農学校黎明期の教育を担ったウィリアム・ペン・ブルックス博士が本学から持ち帰ったとされ、現在は米国の同種では最大規模としてナショナル・チャンピオンに登録されている楡の巨木や、芸術学部のスタジオになっているクラーク博士の名を冠したホールなど、大学の歴史に触れる訪問となりました。また、毎年土作りから市場への卸しまでを行う学生農場、果樹園、個人私有林の調査を行うファミリー・フォレストリサーチセンターといった農学関連施設から、2018年に建設された学内外にオープンな共同研究施設で、29学部200名以上の研究者と100名の外部研究者が活動する異分野融合研究とスタートアップの創出拠点である応用生命科学研究所、高分子企業研究センターなどの研究施設や、別経営であるUMassチャン・メディカルスクールと連携する医理工学科を訪問し、研究者や大学院生から説明を受けました。

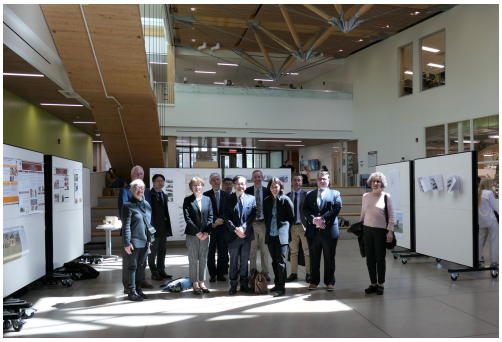
研究担当のローラ・ヴァンデンバーグ副理事、自然科学部のナサニエル・ウィトカー暫定学部長、応用生命科学研究所のピーター・レインハート所長との夕食会では、近年強化されてきた情報・計算科学、農学、高分子分野における研究交流と博士学生共同指導を振り返りました。カンブル・スバスワミー学長主催の昼食会では、プロボストのトリシア・セリオ博士、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長、マニング情報・計算科学部のローラ・ハース学部長、本学とのクロスアポイントメントにあるシュロモ・ジルバースタイン副学部長、ジェイムズ・アラン教授、ストックブリッジ農学校のバオシャン・シン学校長、ナンディータ・マニ図書館長、日本語・日本学のスティーブン・フォレスト上級講師が同席し、今後、戦略的研究パートナーシップ大学として、これまでの図書館員や事務職員の研修、研究人材の相互雇用の実績や、北海道とマサチューセッツ州の姉妹提携関係も踏まえ、2026年に迎える本学創基150周年から次の150年にむけた連携拡大への期待が共有されました。

（国際連携機構）

寳金総長とスバスワミー学長

クラーク博士の墓参り

果樹園


ジョン・W・オルバーデザイン棟

米国マサチューセッツ大学アマースト校から図書館長ら3名が来訪

5月7日（日）から9日（火）にマサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）のナンディータ・マニ図書館長、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長相当、アシュリー・クラウス学生派遣アドバイザーの3名の訪問を受けました。トリヴェディ副学長は10年前に着任し、2020年に日本を訪問する予定でしたがコロナ禍で延期されており、4月19日（水）から21日（金）に寳金清博総長一行が先方を訪問したことが今般の訪問に繋がりました。4月の訪問では本学側一行がアマーストで札幌農学校のルーツに触れましたが、今回は同大学からの一行が札幌でUMass Amherstの前身であるマサチューセッツ農科大学時代からの縁を紐解くこととなりました。

一行は、北大が附属図書館や文書館で保管する当時の資料を直に確認し、両大学にとってウィリアム・スミス・クラーク博士の存在はあまりにも大きいこと、また、ウィリアム・ペン・ブルックス博士ほか、以降の米国からのお雇い外国人教員の尽力がなければ、今日に至る両大学の連携には繋がっていなかったことなどに思いを巡らせました。

附属図書館では、マサチューセッツ農科大学学長であったクラーク博士を札幌農学校へ招いた際の契約書「札幌農学校教頭及び農業・化学・数学・普通英語教授として雇傭契約書（和文・英文）」、「雇傭契約調印につき照会／駐米公使吉田清成（ワシントン）」の原本を大変興味深くご覧になりました。これらの資料を含む館内所蔵の貴重書等は「北方資料データベース（https://www2.lib.hokudai.ac.jp/hoppodb/）」において高精細画像を公開しています。

UMass Amherstには全学的な博物館がなく、所蔵資料を各部局で管理していることから、来訪者や大学コミュニティの人々にとってストーリー性を持ち、見やすく整理された全学的な博物館の担う機能は大きいと、総合博物館に感銘を受け、また、マサチューセッツ州の当時のバーン（畜舎）が焼失していることから、本学のモデルバーンを興味深く見学していました。

一行は、寳金総長、山本文彦理事・副学長/附属図書館長、増田隆夫理事・副学長、髙橋　彩理事・副学長、横田　篤理事・副学長ら執行部のほか、附属図書館の稲葉　睦副館長、情報科学研究院の吉岡真治教授、北方生物圏フィールド科学センターの星野洋一郎教授、農学研究院の愛甲哲也准教授、高等教育推進機構のピーター・フィルコラ教授、肖　蘭特任講師、メディア・コミュニケーション研究院の石見　禎講師ら教員、国際部や学務部関係者との面会や打ち合わせを行い、2026年に迎える北大創基150周年での再会を祈念しました。

（国際連携機構）
（附属図書館）

総長室にて

クラーク博士の契約書をご覧になるマニ図書館長

文書館保有資料を見る一行

クラウス学生派遣アドバイザーが石見講師の講義参観

大学院留学生向け日本就職に関する情報提供セミナー Essential knowledge and tips for your job hunting in Japan を英語で開催

大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPは、5月18日（木）に大学院留学生を対象とした英語による日本就職に関する情報提供セミナー「Essential knowledge and tips for your job hunting in Japan」を開催しました。

当日は、外国人留学生の就職活動を支援するサイトである「リュウカツ」を展開する株式会社オリジネーターの須藤　歩氏を講師に迎え、日本での就職活動のスケジュールや、就労のための在留資格、企業から求められる日本語力等について説明した後、活発な質疑応答が行われました。

8大学院から修士課程3名、博士後期課程7名の計10名の留学生が参加し、終了後のアンケートでは「就職に必要な条件や就職活動のスケジュールなど、参考になる話が多かったです」「日本企業が求める人材について学ぶことができました。また、就職支援やエージェントについての情報も得ることができました」等のコメントが寄せられました。

北海道大学は第4期中期目標・中期計画に基づく大学院改革のうち、キャリア支援に関して、「学部から博士までの一貫したキャリア教育の強化」を掲げています。その一方で、学生の在籍数に占める留学生の割合は博士後期課程の約3分の1、修士課程の約4分の１となっており、留学生向けの英語によるキャリア支援は需要な課題となっています。大学院教育推進機構先端人材育成センターI-HoPでは、大学院留学生の日本でのキャリアパスを広げるため、就職支援やトランスファラブルスキル強化など、英語による多様なプログラムを展開しています。

（先端人材育成センター）

須藤講師の講演を聴く留学生

「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 2022年度は22名の教員が11校に向けて講義を実施

本学の第一線の研究者が、出張講義などを通じて高校生に研究を伝える「Academic Fantasista（アカデミックファンタジスタ）」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと、2012年度より実施しています。2022年度は、22名の教員が11の中学校・高校を対象に出張講義またはオンライン講義を行い、およそ延べ1,100名の生徒が参加しました。

本事業は2023年度も実施予定です。今年度も、北大時報や北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」、Facebookで講義レポート等を随時更新していきます。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/
・Facebook
https://www.facebook.com/Hokkaido.univ.taiwa

（広報・社会連携本部
広報・コミュニケーション部門）

リサーチタイムズ

フェイスブック

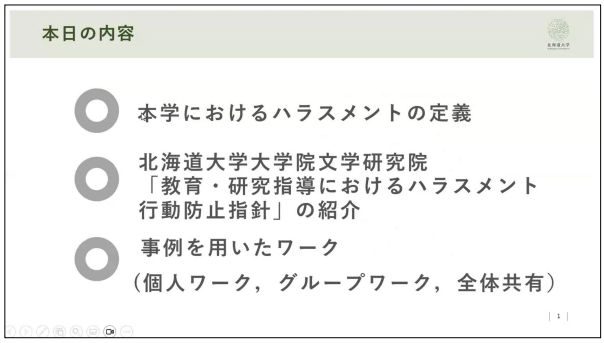
文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催

文学研究院では、5月19日（金）、ハラスメント防止（予防）に係る知見を得るためのFD研修を、本学のハラスメント相談室で実際の業務に当たられている専門相談員で弁護士の上田絵理氏と、公認心理師の木村純一氏を講師としてお招きし、Zoomによるオンライン形式で開催しました。

本FDは、副題として「～最悪の事態を招かないために教員は何に留意すべきか2023～」とし、①本学におけるハラスメントの定義、②文学研究院が2021年2月に定めた「教育・研究指導におけるハラスメント行動防止指針」の紹介、③事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）、の3節で行われました。特に事例を用いたワークでは、講師が用意した仮想事例に基づいた二つのテーマについて、参加者が個々に考えをまとめた後、5～6名のグループに分かれてのディスカッションを行うことにより、主体的・積極的な意見交換がなされただけでなく、各グループの討議結果を共有することにより、各教員が日頃の教育・研究指導のあり方について改めて考える機会になったと思われます。

今回のFDは、研究院内の教員65名がZoomで参加し、大変有意義なFDとなりました。

（文学研究院）



研修はZoomにより資料を写しだして行われた

講師のハラスメント相談室の先生方

函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施

5月10日（水）に、函館キャンパスにおいて「春のキャンパス一斉清掃」を実施しました。

晴天の下、学生・教職員をあわせて約220名が参加し、函館キャンパス構内及び周辺の清掃を行いました。本清掃によって、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約3.0㎥のごみを収集しました。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

清掃前に担当区域を確認する学生達

集めたごみを分別する職員

精力的に清掃活動を行った学生達

収集した約3.0㎥のごみ

水産科学研究院「水産科学未来人材育成館新営その他工事の安全祈願祭」を挙行

水産科学研究院では、5月18日（木）に亀田八幡宮で「水産科学未来人材育成館新営その他工事の安全祈願祭」を挙行しました。

安全祈願祭には、主催の佐藤工業株式会社（建築工事受注者）をはじめ、施工業者から10名、水産科学研究院からは都木靖彰研究院長のほか函館キャンパス事務部職員を含む4名が参加しました。

厳かな雰囲気のもと行われた祭儀では、神職による修祓、祝詞奏上に続き、都木研究院長らによる玉串奉奠によって工事の安全を祈願しました。

水産科学未来人材育成館は令和6年秋頃の開館を予定しています。開館までどうぞ楽しみにお待ちください。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

安全祈願祭に参加する都木研究院長

関係者らによる集合写真

完成予想図

メディア・コミュニケーション研究院が中国人民大学と初の学術交流

メディア・コミュニケーション研究院は5月20日（土）、中国人民大学新聞学院と共催で、国際学術研究会「メディアが直面する挑戦と未来への展望」をオンライン開催しました。

中国人民大学新聞学院は、メディア・ジャーナリズム、コミュニケーション研究・教育で中国を代表する大学・大学院です。本学と中国人民大学は、2015年に大学間交流協定を結んでいますが、本研究院と新聞学院の学術交流は今回が初めてで、今後ともジャーナリズム・メディア分野の交流を深化させることで一致しました。

国際学術研究会には双方から約60人が参加。代表者として本研究院の奥　聡研究院長と新聞学院の周　勇院長が出席し、挨拶を述べました。

周院長は、「デジタル革命の到来と共に、新しいメディア技術は現代生活のあらゆる側面を変えています。新しいメディア時代において、国際化、学際化、異文化への適応がメディア専門家にとって三つの重要な特徴であると考えています。」と強調しました。奥研究院長も、「（本研究院は）中国をはじめアジア各地などから留学生が集まり、自然豊かな北海道という地理的優位性を生かし、東アジアにおけるメディア・ジャーナリズム交流の拠点にもなっています。」と述べました。

研究報告は、双方の教員・博士課程学生4人ずつ計8人が行いました。本研究院からは、▽「北海道大学の対中認識とジャーナリズムの役割：日中関係安定化への提言」（城山英巳教授）▽「デジタル技術と日中のデジタルガバメント」（王　冰助教）▽「日本の全国紙における新型コロナ感染症に関する議題設定と感情伝達の実証分析」（于　海春助教）▽「権力概念とマスメディア：社会学的理論研究の視点から」（朱　迪博士課程3年）について報告がありました。

中国人民大学新聞学院からは、▽「アクターネットワーク理論の観点から見た中国におけるデータジャーナリズムイノベーションに関する研究」▽「中国のインフルエンサーとプラットフォーム型コンテンツ制作」▽「“サブカルチャー”を超えて：新語態の二重媒体化」▽「マンマシン（人間と機械）対話型ニュース：スマートニュースにおける生成AIの発展と挑戦」の題目で報告が行われました。8人の研究報告後、同新聞学院の閆　岩教授がコメントするなどディスカッションが行われ、計4時間超にわたる密度の濃い学術研究会は終了しました。

初の学術交流の開催を目指し、双方の責任者は令和4年秋から協議を始め、内容や形式、使用言語（中国語と日本語を使用）などに関して意見交換を重ね、8人の研究報告内容を集めた冊子も作成するなど準備に時間をかけました。

（メディア・コミュニケーション研究院）

学術研究会に出席する中国人民大学新聞学院の教員・学生

環境健康科学研究教育センターが調査参加者の高校生に向けて見学会を実施

環境健康科学研究教育センターは、3月28日（火）に「環境と健康に関するモニタリング調査（北海道スタディ）」の参加者である札幌市内の高校生とそのご友人2名に向けて、研究に関する見学会を実施しました。

参加者は、はじめに「北海道スタディの目的、方法、これまでの成果、今後の計画」についての紹介を聞き、事務局と中央キャンパス総合研究棟2号館・実験室の見学をしました。

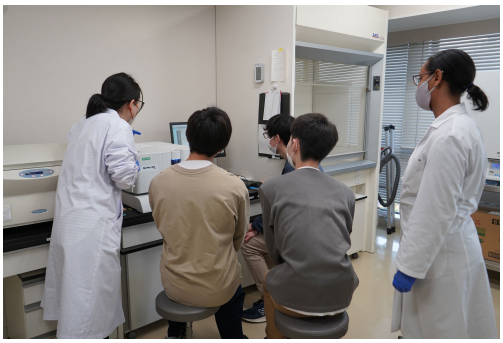
その後、本センターの研究者である山﨑圭子特任講師、山口健史特任講師、田村菜穂美特任助教との座談会にて職業選択や進路に関する意見交換を行い、「研究職とはどのような仕事なのか？」について、大変熱心な様子で講師たちのお話を聞いていました。

最後に、保健科学研究院・池田敦子教授の実験室にて、検体測定の見学や、マルチチャンネルピペットを使った分注の体験をしました。

参加者からは「将来の進路を考えていく上での参考となった」とのご感想をいただき、大変有意義な見学会となりました。

（環境健康科学研究教育センター）

座談会の様子


実験見学の様子

見学後の集合写真

桂田静枝・芳枝姉妹の旧蔵資料を大学文書館で受贈

大学文書館では、5月10日（水）及び5月30日（火）に、桂田静枝（第六臨時教員養成所1923年修了、元小樽高等女学校教諭・北海道青年師範学校教官・北海道教育大学教授）・桂田芳枝（北海道帝国大学理学部数学科1942年卒業、元本学理学部教授）姉妹と桂田家ゆかりの資料7箱を、廣中幸子様からご寄贈いただきました。静枝・芳枝姉妹は、廣中様の大伯母・大叔母にあたります。

桂田芳枝（1911-1980）は、小樽高等女学校を1928（昭和3）年に卒業後、数学研究を志し、東京物理学校（1931～1934年）・東京女子大学数学専攻部（1938～1940年）を経て、北海道帝国大学理学部数学科に1940年4月入学、幾何学教室の河口商次教授に師事しました。1942年9月理学部を卒業後は、助手（1942年～）として籍をおき、1950年7月に理学博士号（旧制）を取得しました。同年11月助教授に昇任し、1956～1970年にかけて、イタリア並びにスイスの国立高等数学研究所やカリフォルニア大学から招聘をうけ、海外研究の出張を重ねました。1967年10月～1975年4月には教授として幾何学教室を主宰しました。桂田芳枝は、日本において数学分野の理学博士号を女性で最初に取得した人物であり、本学における最初の女性の教授です。

今回受贈した資料群のうち、桂田芳枝にまつわる資料は、(1) 研究資料・原稿類（研究ノート、手稿「affine geometry」など）、(2) 写真類、(3) 書簡・電報類、(4) 物品資料（愛用のカメラ、海外出張時の鞄、「桂田教授室」の表札、勲章など）、(5) 書類・証書類（理学部数学科入学許可書、履歴書、名刺、名誉教授の証、勲三等瑞宝章の位記、北海道文化賞の賞状など）、(6) 美術品（元理学部教授の池田芳郎による油彩画5点）など、多岐にわたります。

一方、桂田静枝（1903-1984）にまつわる資料は、(1) 研究資料（研究ノート「衣服及被服材料」ほか）、(2) 写真類、(3) 書簡（静枝宛て芳枝書簡を含む）、(4) 証書類（勲三等瑞宝章の位記ほか）、(5) 物品資料（勲章、桂田ウノ〔姉妹の母〕の回顧談の録音オープンリールテープ）、(6) 印刷物（桂田芳枝を取り上げた新聞記事の切り抜きや刊行物）などです。今後、受贈資料は大学文書館沿革資料室において大切に保管し、整理・目録作成を進めていきます。

大学文書館では、2005（平成17）年開館当初より、戦前期に本学で学び、研究した女性たちの姿を追いかけてきました。これまで、調査研究の成果は『大学文書館年報』で公表し、資料見学会や企画展示「アンビシャス！理系女子――女性の北大生誕100年」（会期2018年9月～2019年7月）、「北大における女性自学から男女共学へ――新制大学70年」（会期2019年8月～2021年4月、2022年4月～8月）を開催しています。

今回ご寄贈いただいた豊富な資料を中心として、本学における先駆的な女性研究者をテーマにした特別展示を、次年度、大学文書館1階の沿革展示室において、開催いたします。

（大学文書館）

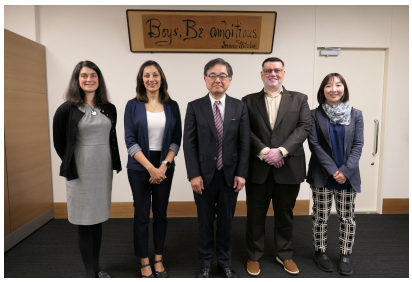
桂田芳枝・ウノ・静枝（1920年代）

桂田芳枝の研究ノートと教授室の表札

表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
5.5.8	マサチューセッツ大学アマースト校（アメリカ合衆国）　Nandita S. Mani 図書館長	今後の交流に関する懇談
5.5.10	駐日トルコ共和国大使館　Korkut Güngen 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.5.11	台北駐日経済文化代表処　Yu-Han Tsou 顧問	今後の交流に関する懇談
5.5.15	スイスジャーマン大学（インドネシア共和国）　Filiana Santoso 学長	今後の交流に関する懇談
5.5.19	国連大学欧州事務所　Shen Xiaomeng 副学長	今後の交流に関する懇談
5.5.24	ドイツ・スマート農業視察団　Henning Mueller氏（Agrotech Valley Forum e.V. 初代会長）	今後の交流に関する懇談
5.5.24	蔚山大学校医科大学（大韓民国）　Seong Who Kim 学長	今後の交流に関する懇談



Nandita S. Mani マサチューセッツ大学アマースト校図書館長（左から2人目）

Korkut Güngen 駐日トルコ共和国特命全権大使（中央左）

Yu-Han Tsou 台北駐日経済文化代表処顧問（中央左）

Filiana Santoso スイスジャーマン大学学長（左から4人目）

Shen Xiaomeng 国連大学欧州事務所副学長（左から3人目）

Henning Mueller氏（右から2人目）

Seong Who Kim 蔚山大学校医科大学学長（中央左）

（国際部国際連携課）

人事

令和5年6月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
アイヌ・先住民研究センター教授	北　原　次郎太	アイヌ・先住民研究センター准教授
国際連携研究教育局・アイヌ・先住民研究センター教授	山　﨑　幸　治	国際連携研究教育局・アイヌ・先住民研究センター准教授

新任教授紹介

令和5年6月1日付

アイヌ・先住民研究センター教授に

北原（きたはら） モコットゥナシ（次郎太（じろうた））　氏

生年月日
昭和51年3月19日
最終学歴
千葉大学大学院社会文化科学研究科日本研究専攻博士後期課程修了（平成19年9月）
博士（学術）（千葉大学）
専門分野
アイヌ民族の宗教、アイヌ語、口承文芸

国際連携研究教育局
アイヌ・先住民研究センター教授に

山﨑（やまさき）　幸治（こうじ）　氏

生年月日
昭和50年4月
最終学歴
名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程退学（平成20年3月）
修士（学術）（名古屋大学）
専門分野
文化人類学、博物館学

訃報

名誉教授　新妻（にいづま）　篤（あつし）　氏

（享年93歳）

名誉教授　新妻　篤　先生が令和5年3月30日にご逝去されました。

新妻先生は、昭和4年4月24日北海道札幌郡藻岩村に生まれ、昭和28年3月北海道大学文学部文学科独文学専攻を卒業されました。

同年4月に同文学院に進学し、昭和30年12月に中途退学されました。昭和31年1月に北海道大学文学部講師として採用され、昭和39年10月助教授、昭和51年12月教授に昇任後、昭和56年4月同大学言語文化部に配置換されると同時に、言語文化部長に任命されました。昭和58年4月から昭和60年3月まで再び言語文化部長に任命され、平成3年1月から平成4年12月までは教養部長に任命されました。その後、平成5年3月31日に定年により退職されました。また、平成21年4月には、これまでの業績が認められ、瑞宝中綬章が授与されました。

同人の研究基盤の一つは数度にわたる欧州ドイツ語圏への研究渡航です。昭和37年9月からスイス政府給費留学生としてチューリッヒ大学のシュタイガー教授に学び、さらにアレクサンダー・フォン・フンボルト財団奨学生としてミュンヘン大学のクーニッシュ教授のもとでも研鑽を積んでおり、この二年間にわたる研究留学を端緒とする研修渡航、国際会議参加は主なものだけでも7回を数えます。本学とドイツ・ミュンヘン大学との交流協定締結は、これらの国際的学術交流のもたらした成果の一つであると言えます。また平成元年1月には、同人にアレクサンダー・フォン・フンボルト財団から国際学術協力賞「フンボルト・メダル」が授与されており、同人が国際的な学術交流においていかに多大な貢献をしたのかが分かります。

同人のドイツ文学分野での研究領域は、19世紀市民社会を背景として成立した詩的リアリズムの系譜につらなるスイスの詩人ゴットフリート・ケラー、同じくスイスの詩人コンラート・フェルディナント・マイヤー、そして19世紀末から20世紀にかけて活躍したドイツの現代詩人ライナー・マリーア・リルケでありました。昭和30年代の日本の独文学者たちがドイツ本国の文学に関心を向けるなかで、同人の関心はドイツとは異なる国民国家形成過程を辿ったスイスの両詩人に向けられ、そこにどのような異質性と普遍性を見出すことができるのか研究されておりました。

また同人は、北海道大学言語文化部長、教養部長をはじめ多くの学内委員会で委員として尽力されましたが、とりわけ昭和49年からは一般教育特別委員会、教養課程特別委員会、教養課程改革調査委員会委員として教養部改革に貢献し、平成3年から退職までは学部教育課程専門委員会委員長として本学に貢献されました。

新妻先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）

資料

在 籍 学 生 数（令和5年5月1日現在）

（注）1（　）内は女子の内数、〈　〉内は女子の比率。
2［　］内は2年次編入学定員で外数。
3〔　〕内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。
4 以下の表は，すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人［　人］	―人	190人	196人	233人	―人	―人	619人 (260〈42.0%〉)	27人	9人	6人	19人	680人 (293〈43.1%〉)
教育学部	50　〔10　〕	―	51	66	70	―	―	187 (85〈45.5　〉)	9	2	4	1	203 (92〈45.3　〉)
法学部	200　［10　］〔10　〕	―	222	221	243	―	―	686 (209〈30.5　〉)		3	1	3	693 (213〈30.7　〉)
経済学部	190	―	198	187	221	―	―	606 (126〈20.8　〉)	7			8	621 (135〈21.7　〉)
理学部	300	―	318	322	353	―	―	993 (232〈23.4　〉)		1		4	998 (235〈23.5　〉)
医学部	287　［5　］	―	303	300	294	103	117	1,117 (515〈46.1　〉)	3			3	1,123 (516〈45.9　〉)
歯学部	53	―	60	51	43	53	51	258 (109〈42.2　〉)	1				259 (109〈42.1　〉)
薬学部	80	―	79	84	84	30	31	308 (124〈40.3　〉)			1		309 (124〈40.1　〉)
工学部	670　〔10　〕	―	663	708	777	―	―	2,148 (284〈13.2　〉)				15	2,163 (290〈13.4　〉)
農学部	215	―	215	221	228	―	―	664 (227〈34.2　〉)	2	2		2	670 (229〈34.2　〉)
獣医学部	40	―	42	43	43	42	41	211 (120〈56.9　〉)					211 (120〈56.9　〉)
水産学部	215	―	229	212	201	―	―	642 (163〈25.4　〉)	7		2	9	660 (169〈25.6　〉)
現代日本学プログラム課程	―	―	18	19	14	―	―	51 (34〈66.7　〉)					51 (34〈66.7　〉)
総合教育部	―	2674	―	―	―	―	―	2,674 (764〈28.6　〉)					2,674 (764〈28.6　〉)
合計	2,485　［15］〔30　〕	2674	2,588	2,630	2,804	228	240	11,164 (3,252〈29.1　〉)	56	17	14	64	11,315 (3,323〈29.4　〉)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修生	日本語研修生	合計
北極域研究センター	2人	人	人	人	人	2人（0〈　0.0〉）
低温科学研究所				―	―	0　（0〈　0.0〉）
電子科学研究所	1	1		―	―	2　（0〈　0.0〉）
遺伝子病制御研究所	2			―	―	2　（0〈　0.0〉）
触媒科学研究所	1			―	―	1　（0〈　0.0〉）
スラブ・ユーラシア研究センター	2	1		―	―	3　（2〈 66.7〉）
情報基盤センター	2			―	―	2　（2〈100.0〉）
国際連携機構				―	―	0　（0〈　0.0〉）
総合博物館				―	―	0　（0〈　0.0〉）
北方生物圏フィールド科学センター	2			―	―	2　（1〈 50.0〉）
高等教育推進機構			68	67	8	143　（83〈 58.0〉）
合計	12	2	68	67	8	157　（88〈 56.1〉）

■大学院

（注）法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
生命科学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）						研究生	聴講生	科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	合計
	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	小計	入学定員	在籍者数 1年次	2年次	3年次	4年次	小計						
文学院	90人	103人	126人	229人 (128〈55.9%〉)	一人	一人	一人	一人	一人	35人	40人	40人	70人	一人	150人 (69〈46.0%〉)	人	3人	2人	4人	3人	391人 (202〈51.7%〉)
文学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9					9 (6〈66.7〉)
文学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33	—	33 (15〈45.5〉)						33 (15〈45.5〉)
法学研究科	20	16	34	50 (23〈46.0〉)	50	29 31	16 26	14 —	116 (24〈20.7〉)	15	4	5	16	—	25 (7〈28.0〉)	10		2	2	13	218 (69〈31.7〉)
情報科学院	196	206	212	418 (42〈10.0〉)	—	—	—	—	—	43	28	26	58	—	112 (16〈14.3〉)				2	3	535 (60〈11.2〉)
情報科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6 (1〈16.7〉)
情報科学研究科	—	—	1	1 (0〈0.0〉)	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	8 (1〈12.5〉)						9 (1〈11.1〉)
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
水産科学院	114	131	112	243 (62〈25.5〉)	—	—	—	—	—	19	22	12	26	—	60 (16〈26.7〉)				8		311 (83〈26.7〉)
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1〈50.0〉)
環境科学院	159	148	169	317 (90〈28.4〉)	—	—	—	—	—	63	43	56	79	—	178 (61〈34.3〉)		1		4	5	505 (157〈31.1〉)
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (6〈75.0〉)
理学院	127	134	157	291 (44〈15.1〉)	—	—	—	—	—	55	31	43	64	—	138 (26〈18.8〉)				2		431 (70〈16.2〉)
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15					15 (7〈46.7〉)
農学院	142	160	182	342 (137〈40.1〉)	—	—	—	—	—	36	39	33	59	—	131 (40〈30.5〉)				1		474 (178〈37.6〉)
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9					9 (2〈22.2〉)
生命科学院	132	117	136	253 (85〈33.6〉)	—	—	—	—	—	44 6	48 6	50 7	57 7	— 5	180 (61〈33.9〉)				6	2	441 (149〈33.8〉)
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (0〈0.0〉)
教育学院	45	36	65	101 (62〈61.4〉)	—	—	—	—	—	21	17	15	70	—	102 (52〈51.0〉)			2	1		206 (117〈56.8〉)
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (2〈66.7〉)
国際広報メディア・観光学院	47	46	71	117 (84〈71.8〉)	—	—	—	—	—	12	14	14	51	—	79 (46〈58.2〉)			1		5	202 (135〈66.8〉)
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17					17 (14〈82.4〉)
保健科学院	40	49	51	100 (55〈55.0〉)	—	—	—	—	—	10	12	10	33	—	55 (22〈40.0〉)			1			156 (78〈50.0〉)
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15					15 (7〈46.7〉)
工学院	326	378	373	751 (93〈12.4〉)	—	—	—	—	—	69	63	62	90	—	215 (36〈16.7〉)				5	9	980 (133〈13.6〉)
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20					20 (1〈5.0〉)
総合化学院	129	157	146	303 (76〈25.1〉)	—	—	—	—	—	38	38	41	56	—	135 (28〈20.7〉)				7		445 (108〈24.3〉)
経済学院	35	42	36	78 (34〈43.6〉)	20	21	23	—	44 (8〈18.2〉)	8	11	6	19	—	36 (12〈33.3〉)					1	159 (55〈34.6〉)
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (0〈0.0〉)
経済学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2 (0〈0.0〉)						2 (0〈0.0〉)
医学院	20	4 23	27	54 (25〈46.3〉)	—	—	—	—	—	90	103	103	97	157	460 (114〈24.8〉)				3		517 (140〈27.1〉)
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (4〈50.0〉)
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22	22 (5〈22.7〉)						22 (5〈22.7〉)
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	33	29	31	47	140 (68〈48.6〉)						140 (68〈48.6〉)
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (2〈66.7〉)
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1 (0〈0.0〉)						1 (0〈0.0〉)
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	17	18	9	8	52 (18〈34.6〉)				1		53 (18〈34.0〉)
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (1〈33.3〉)
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
医理工学院	12	15	14	29 (6〈20.7〉)	—	—	—	—	—	5	4	2	11	—	17 (2〈11.8〉)						46 (8〈17.4〉)
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	15	18	12	4	49 (24〈49.0〉)				9	1	59 (30〈50.8〉)
国際食資源学院	15	14	18	32 (18〈56.3〉)	—	—	—	—	—	6	15	7	7	—	29 (12〈41.4〉)						61 (30〈49.2〉)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	28	36	—	64 (22〈34.4〉)	—	—	—	—	—	—		1	1			66 (22〈33.3〉)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1〈50.0〉)
合計	1,649	1,779	1,930	3,709 (1,064〈28.7〉)	100	109	101	14	224 (54〈24.1〉)	643	603	597	965	244	2,409 (751〈31.2〉)	132	5	9	55	42	6,585 (1,986〈30.2〉)

（学務部学務企画課）

令和5年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和5年5月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文学部	3（1）	2（2）			2（2）	38（23）	45（28）
教育学部	1	1				9（5）	11（5）
法学部					1	3（3）	4（3）
経済学部		2			1	13（9）	16（9）
理学部	8（4）				22（8）	4（3）	34（15）
医学部					1（1）	3（1）	4（2）
薬学部					1（1）		1（1）
工学部	13（1）				18（3）	15（6）	46（10）
農学部						2（2）	2（2）
獣医学部					1（1）		1（1）
水産学部					7（3）	8（2）	15（5）
現代日本学プログラム課程	4（3）				45（29）		49（32）
総合教育部	12（1）				25（12）		37（13）
合計	41（10）	5（2）			124（60）	95（54）	265（126）

大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
法学研究科			3（1）	1（1）					32（18）		11（3）	23（13）	70（36）
水産科学院	2		4（3）					6（4）	18（6）		17（3）	2（1）	49（17）
水産科学研究院				1									1
環境科学院	17（9）		20（8）				1	2（2）	61（21）		69（29）	5（4）	175（73）
地球環境科学研究院				2（2）								6（4）	8（6）
理学院	4（1）		3（1）						27（8）		27（9）		61（19）
理学研究院				3（1）								6（4）	9（5）
農学院	11（7）		19（10）						23（11）		33（17）	1（1）	87（46）
農学研究院				2								4（1）	6（1）
生命科学院	8（1）		26（13）						33（11）		54（24）	3（3）	124（52）
先端生命科学研究院												1	1
教育学院	1（1）								32（27）		18（13）	1（1）	52（42）
教育学研究院												2（2）	2（2）
国際広報メディア・観光学院			3（1）						96（75）		38（26）	5（5）	142（107）
メディア・コミュニケーション研究院				2（2）								14（12）	16（14）
保健科学院	1（1）		2（2）						9（3）		11（3）		23（9）
保健科学研究院												10（5）	10（5）
工学院	30（11）		28（5）					1	73（15）		80（20）	11（4）	223（55）
工学研究院				1								15（1）	16（1）
総合化学院	1		6（4）				2	3（1）	25（11）		46（17）	2（2）	85（35）
経済学院	6（2）		1						55（30）	1	20（9）	1（1）	84（42）
経済学研究院												1	1
医学院	1（1）		3（1）				1（1）		13（11）		44（22）	2（1）	64（37）
医学研究院												7（4）	7（4）
歯学院											27（15）		27（15）
歯学研究院												1（1）	1（1）
獣医学院			9（1）								16（7）	1	26（8）
文学院	3（2）		8（4）						85（56）		60（38）	5（2）	161（102）
文学研究院				2（2）								2（1）	4（3）
文学研究科											7（4）		7（4）
情報科学院	4		3（1）						33（7）		37（11）	4（1）	81（20）
情報科学研究院												5（1）	5（1）
情報科学研究科											3（1）		3（1）
医理工学院			1						2		3		6
国際感染症学院			16（10）								15（7）	1（1）	32（18）
国際食資源学院	1（1）		4（3）				1（1）		6（4）		14（5）		26（14）
公共政策学教育部										17（10）			17（10）
公共政策学連携研究部				1								1（1）	2（1）
電子科学研究所								1					1
遺伝子病制御研究所												2	2
スラブ・ユーラシア研究センター				1（1）								2（1）	3（2）
情報基盤センター												2（2）	2（2）
北方生物圏フィールド科学センター												1	1
北極域研究センター												2	2
高等教育推進機構												64（31）	64（31）
合計	90（37）	0	159（68）	16（9）	0	0	5（2）	13（7）	623（314）	18（10）	650（283）	215（111）	1,789（841）

日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	19（10）	48（35）	8（3）		75（48）

外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生（「留学」以外）	留学生及び外国人学生総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
165（70）	713（351）	18（10）	814（353）	344（183）	75（48）	2,129（1,015）	48（27）	2,177（1,042）

＊（　　）内は女子を内数で示す
＊修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む
＊研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

（学務部国際交流課）

令和5年度国別外国人留学生数

令和5年5月1日現在

地域	国名（地域名）	国費留学生 学部 学士	国費留学生 学部 研究生	国費留学生 日本語・日本文化研修生	国費留学生 日本語研修生	国費留学生 大学院 修士	国費留学生 大学院 専門職学位	国費留学生 大学院 博士	国費留学生 大学院 研究生	国費留学生 小計	外国政府派遣留学生 学部 学士	外国政府派遣留学生 大学院 修士	外国政府派遣留学生 大学院 専門職学位	外国政府派遣留学生 大学院 博士	外国政府派遣留学生 大学院 特別研究学生	外国政府派遣留学生 小計	私費留学生 学部 学士	私費留学生 学部 研究生	私費留学生 学部 特別聴講学生	私費留学生 日本語・日本文化研修生	私費留学生 日本語研修生	私費留学生 大学院 修士	私費留学生 大学院 専門職学位	私費留学生 大学院 博士	私費留学生 大学院 研究生	私費留学生 大学院 特別研究学生	私費留学生 大学院 特別聴講学生	私費留学生 小計	合計
アジア	インド	1		3(1)		15(3)		8(3)	1(1)	28(8)							2(1)					5(2)		20(10)	2(1)		1	30(14)	58(22)
	インドネシア	1(1)		1		10(6)		11(8)	1(1)	24(16)							7(4)					6(2)		16(7)		1	8(4)	38(17)	62(33)
	カンボジア	2						2		4												2		4(1)				6(1)	10(1)
	シンガポール																					1		3				4	4
	スリランカ			1(1)		2(1)		3(1)		6(3)												1		3(2)			1(1)	5(3)	11(6)
	タイ	4(2)		2		2(2)		12(7)		20(11)							8(4)		4(1)			4(2)		12(9)		1	3(2)	32(18)	52(29)
	台湾																4(3)		8(2)	4(4)		19(12)		17(9)	3(1)	4(2)	11(6)	70(39)	70(39)
	大韓民国	13(1)		1(1)		3		3(2)	1(1)	21(5)							13(2)		25(13)	3(2)		24(5)		22(8)				87(30)	108(35)
	中華人民共和国			1		4(1)		26(10)	2(2)	33(13)				5(2)	13(7)	18(9)	40(17)	36(24)	19(13)	30(21)		518(279)	17(9)	437(191)	77(37)	12(9)	22(12)	1,208(612)	1,259(634)
	ネパール					1		3(2)		4(2)														1				1	5(2)
	パキスタン		1			1(1)		2(2)		4(3)												2(1)		2				4(1)	8(4)
	バングラデシュ					4(2)		21(6)		25(8)														13(6)	1	1(1)		15(7)	40(15)
	フィリピン	3(1)			2(1)	5(3)		8(1)		18(6)							4(2)					3(1)		7(1)				14(4)	32(10)
	ブータン					1				1																			1
	ブルネイ							2		2														1(1)				1(1)	3(1)
	ベトナム					5(1)		7(4)		12(5)							3(1)					1(1)		6(3)	1(1)		1(1)	12(7)	24(12)
	マレーシア	2(1)			1(1)	3(1)		2(2)	1	9(5)												1		6(3)				7(3)	16(8)
	ミャンマー	1(1)				1(1)		3(2)		5(4)												1(1)		6(3)				7(4)	12(8)
	モンゴル					1		1(1)		2(1)							1(1)					1(1)		6(2)	1(1)			9(5)	11(6)
	ラオス																							1				1	1
	小計(19カ国1地域)	27(7)	1	9(3)	3(2)	58(22)		114(51)	6(5)	218(90)				5(2)	13(7)	18(9)	82(35)	36(24)	56(29)	37(27)		589(307)	17(9)	583(256)	85(41)	19(12)	47(26)	1,551(766)	1,767(865)
中東	イラン			1(1)				1		2(1)																			2(1)
	クウェート																							1				1	1
	サウジアラビア																							3				3	3
	シリア					2(2)				2(2)																			2(2)
	トルコ							1(1)		1(1)												1		2(1)				3(1)	4(2)
	ヨルダン					1(1)				1(1)														1				1	2(1)
	レバノン				1					1																			1
	小計(7カ国)			1(1)	1	3(3)		2(1)		7(5)												1		7(1)				8(1)	15(6)
アフリカ	アンゴラ							1		1																			1
	ウガンダ					1				1														1				1	2
	エジプト					1(1)		1(1)		2(2)												2(1)		3(2)				5(3)	7(5)
	エチオピア							3		3														1	1			2	5
	ガーナ							3		3												1		2				3	6
	カーボヴェルデ							1		1																			1
	カメルーン				1					1																			1
	ケニア				1(1)			1(1)		2(2)							1					1					1	3	5(2)
	コンゴ民主共和国							1		1														3				3	4
	ザンビア							4(3)	1	5(3)												1		8(3)				9(3)	14(6)
	ジンバブエ																							2				2	2
	スーダン					1				1																			1
	タンザニア																							2(1)				2(1)	2(1)
	チュニジア							1(1)		1(1)																			1(1)
	ナイジェリア					3		2		5												3		8(3)			1(1)	12(4)	17(4)
	ブルキナファソ																								1			1	1
	ベナン					1				1														1(1)				1(1)	2(1)
	ボツワナ																					1						1	1
	マダガスカル								1	1												1(1)						1(1)	2(1)
	マラウイ							1	1(1)	2(1)												2						2	4(1)
	マリ					1				1																			1
	南アフリカ							1		1																			1
	南スーダン					2				2																			2
	モザンビーク					1(1)				1(1)												1(1)						1(1)	2(2)
	モーリシャス																							1(1)				1(1)	1(1)
	モロッコ																1							1(1)				2(1)	2(1)
	リベリア					1				1																			1
	小計(27カ国)				2(1)	12(2)		20(6)	3(1)	37(10)							2					13(3)		33(12)	2		2(1)	52(16)	89(26)
大洋州	オーストラリア							1(1)		1(1)							2(1)		1(1)	1						1	3(1)	8(3)	9(4)
	フィジー																							1				1	1
	小計(2カ国)							1(1)		1(1)							2(1)		1(1)	1				1		1	3(1)	9(3)	10(4)
北米	アメリカ合衆国	3(1)				1(1)		2	1	7(2)							13(7)			2(1)		1		4(1)	1(1)		4(1)	25(11)	32(13)
	カナダ	1		1		1				3							2(1)			1(1)		3(1)		2			2(1)	10(4)	13(4)
	小計(2カ国)	4(1)		1		2(1)		2	1	10(2)							15(8)			3(2)		4(1)		6(1)	1(1)		6(2)	35(15)	45(17)
中南米	アルゼンチン							1(1)		1(1)															1(1)			1(1)	2(2)
	エクアドル				1	1(1)			1	3(1)																			3(1)
	エルサルバドル					1				1																			1
	グアテマラ	1				1		2		4														1(1)				1(1)	5(1)
	コスタリカ																1(1)											1(1)	1(1)
	コロンビア		1(1)			1(1)		2(2)		4(4)																			4(4)
	ジャマイカ							1		1																			1
	ニカラグア							1		1																			1
	ハイチ							1		1																			1
	ブラジル	3(1)		1(1)		1(1)		1		6(3)							1(1)					1					2(1)	8(4)
	ペルー	1			1				1	3														1				1	4
	ボリビア					1(1)				1(1)																			1(1)
	ホンジュラス							1		1																			1
	メキシコ					1		1		2							1(1)							1(1)				2(2)	4(2)
	小計(14カ国)	5(1)	1(1)	1(1)	2	7(4)		11(3)	2	29(10)							3(3)					1		3(2)	1(1)		8(6)	37(16)
ヨーロッパ	アゼルバイジャン								1	1												1		1(1)				2(1)	3(1)
	アルメニア								1(1)	1(1)																			1(1)
	英国(イギリス)			1(1)						1(1)							5(3)			4(4)				1			2(1)	12(8)	13(9)
	イタリア	1(1)								1(1)												1	1(1)			1(1)	2	5(2)	6(3)
	ウクライナ							2(1)		2(1)														1(1)	1			2(1)	4(2)
	ウズベキスタン					2(1)		1		3(1)														2				2	5(1)
	カザフスタン		1	2(1)						3(1)							1			1(1)							1(1)	3(2)	6(3)
	北マケドニア					1				1																			1
	キルギス																					3(1)						3(1)	3(1)
	スイス																							1(1)			4(3)	5(4)	5(4)
	スウェーデン	2								2												4(1)					3(1)	7(2)	9(2)
	スペイン																2(1)							2(1)		1(1)	1	6(3)	6(3)
	スロベニア																					1						1	1
	セルビア					1(1)				1(1)																			1(1)
	タジキスタン																	1										1	1
	チェコ			1						1							1(1)											1(1)	2(1)
	デンマーク																										1(1)	1(1)	1(1)
	ドイツ																5(3)		1	2(1)						2(1)	3(2)	13(7)	13(7)
	トルクメニスタン																					1						1	1
	ハンガリー							1(1)		1(1)																	4(1)	4(1)	5(2)
	フィンランド																2(2)					1		3(2)			6(2)	12(6)	12(6)
	フランス																1(1)					1		2(2)		1(1)	5(2)	10(6)	10(6)
	ポーランド	1						1(1)		2(1)							1(1)											1(1)	3(2)
	リトアニア		1							1																			1
	ルーマニア					1(1)			1(1)	2(2)																			2(2)
	ロシア	1	1(1)	3(3)		3(2)		4(3)	1(1)	13(10)							2(1)					2(1)		4(3)	2(1)		8(7)	18(13)	31(23)
	小計(26カ国)	5(1)	3(1)	7(5)		8(5)		9(6)	4(3)	36(21)							20(13)	1	1	7(6)		15(3)	1(1)	17(11)	3(1)	5(4)	40(21)	110(60)	146(81)
合計(97カ国・1地域)		41(10)	5(2)	19(10)	8(3)	90(37)	0	159(68)	16(9)	338(139)	0	0	0	5(2)	13(7)	18(9)	124(60)	37(24)	58(30)	48(35)	0	623(314)	18(10)	650(283)	92(44)	25(16)	98(51)	1,773(867)	2,129(1,015)

※（　）内は女子の数で内数

（学務部国際交流課）

編集メモ

●今年度版のキャンパスガイドマップが完成しました。本学のホームページからどなたでもダウンロードできるほか、インフォメーションセンター「エルムの森」などには紙媒体も配架しています。初夏のキャンパス散策時に、ぜひご活用ください。

（掲載先）ホーム＞キャンパスマップ・アクセス＞
北海道大学キャンパスガイドマップ
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/campusmap_jp.pdf

紙媒体はセイコーマート北海道大学店でも入手可能

●6月2日（金）～6月4日（日）の3日間、第65回北大祭が開催されました。

今年度は新型コロナ感染症が5類感染症に移行後初めての開催で、入場者数の制限はありましたが、出店数は約170店舗と昨年度よりも多く、「模擬店グランプリ」など様々なイベントが企画され、会場は賑わっておりました。北大のメインストリートは、趣向を凝らした様々なデザインの模擬店が並び、学生や参加者の笑顔と活気にあふれていました。

当日の北大メインストリートの様子

模擬店と出展者

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、大野池です。睡蓮の葉の隙間から、陽光が反射した水面に空の青が映し出されていました。周辺のベンチに座って水面を眺めながら川のせせらぎを聞くと、ゆっくりとした時間を過ごせます。北大の夏の始まりです。

キャンパス風景 39 大野池（北12条西8丁目）

北大時報 ⑥　No.831　　令和5年6月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html